

薬害関連資料データ・アーカイブズの構築研究

第15回薬害を学び再発を防止するための
教育に関する検討会

2015年12月3日 場所:厚生労働省
法政大学 金 慶南(キム・ギョンナム)

1. 研究概要

1.1 本研究の目的

- 本研究は、戦後の薬害事件と関連する薬害資料を対象に、その保存状況を調査、整理して、共有・活用するシステムとして「薬害資料データ・アーカイブズ」の基盤を構築することが目的である。
- この作業は、薬害資料を活用して持続可能な研究、教育、展示などのためのインフラストラクチャー (infrastructure)、ハブ (Hub) 機能を構築するものである。特に、グローバル化とインターネットの発展に相応しいメタデータ作成を通して、薬害と関連している機関、被害者、研究者、一般の利用者などが、ネット上でデータをみられるような基盤を構築することを目指している。

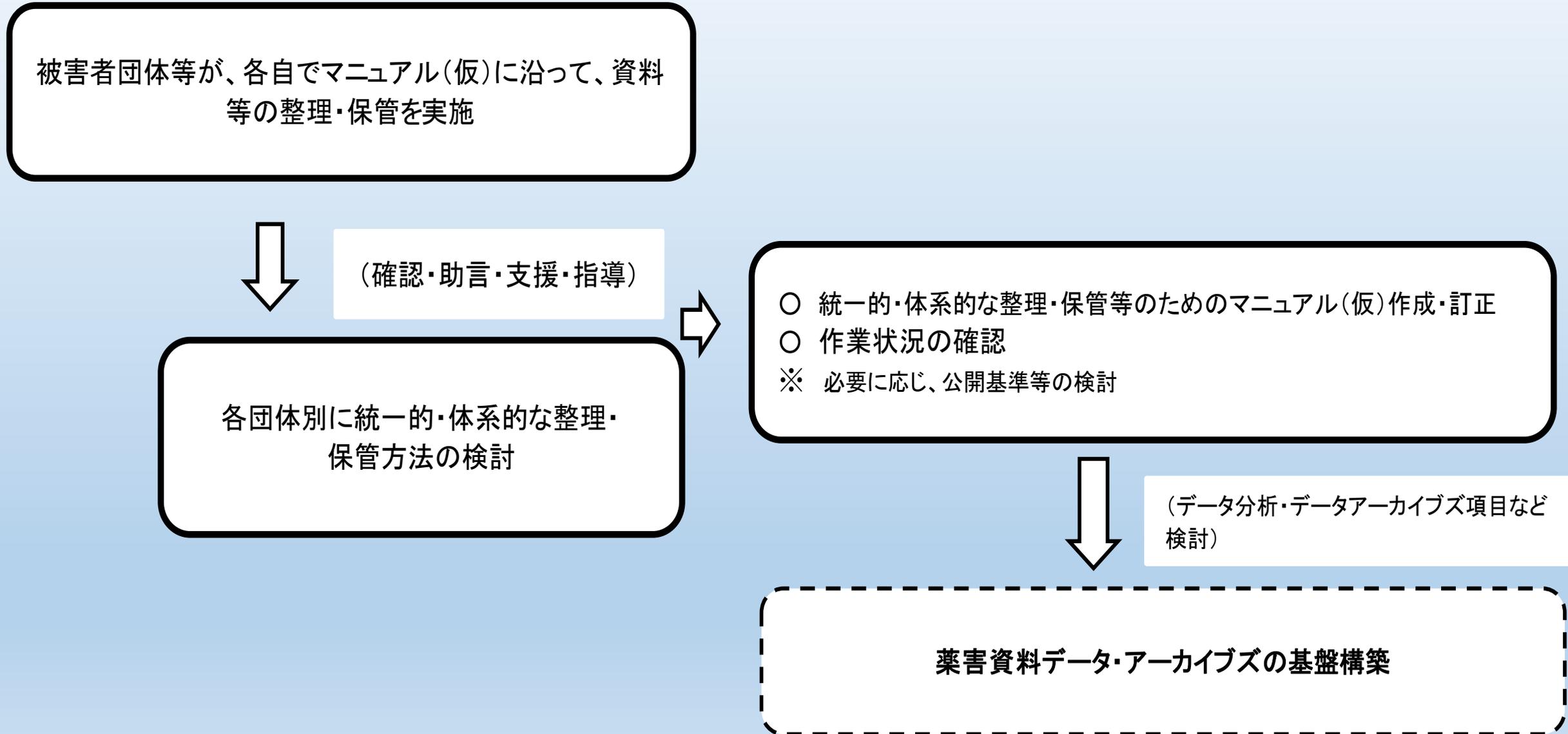
1.2 研究方法

- 研究方法としては、アーカイブズ学のメタデータ管理方法と手順に基づいて、対象となる資料を選別、整理、目録入力、デジタル化（今回は主に保存状態の悪い文書を対象にする）、公開資料の選別、検索機能の設計、共有方法を模索することである。
- メタデータとは、情報検索システムの検索対象となるデータを要約したデータ。図書館情報学の分野では書誌情報と呼ぶこともある。例えば文書であれば作成者、表題、作成年月日等のほか、関連キーワードなどを含めるのが一般的である。

1.3 期待される効果

- 薬害に関する資料等の状態について速やかに調査し、統一的・体系的な整理を行うことにより、過去の貴重な資料の散逸を防止する。
- また、「薬害資料データ・アーカイブズ」の基盤構築により、必要な情報を迅速・確実に入手することが可能となる。薬害に関する啓発や教育、研究等への効果的な利用や被害者等対策への検討材料として活用できる。
- このような迅速な情報の基盤を構築することによって、国民が医薬品等に対して安全対策への認識の向上、薬害の再発防止に寄与することが期待される。

流れ図(平成27年度)



2. 2015年度研究内容と実践事項

2.1 データ・アーカイブズ構築機関の調査

○ 調査内容

代表的な機関の概要調査

(東京大学、北海道大学、法政大学、イギリス市民団体
THE COMMUNITY ARCHIVES AND HERITAGE GROUPなど)

データ・アーカイブズ構築・運営・管理などについて調査・
分析

事例) イギリスにおけるアーカイブズ協同管理体制

団体名 : THE COMMUNITY ARCHIVES AND HERITAGE GROUP
(訳 : コミュニティアーカイブと遺産グループ)

< 理念と主要な役割 >

- イギリス歴史遺産の一つの部門として、地域社会アーカイブズに対する知識にアプローチすることを促進
- 地域社会アーカイブズを教育発展と歴史研究に使用
- 地域社会におけるアーカイブズ・コレクションへの持続可能性とアクセスを支援する標準と教育教材の開発
- 公開して利用可能な情報を提供

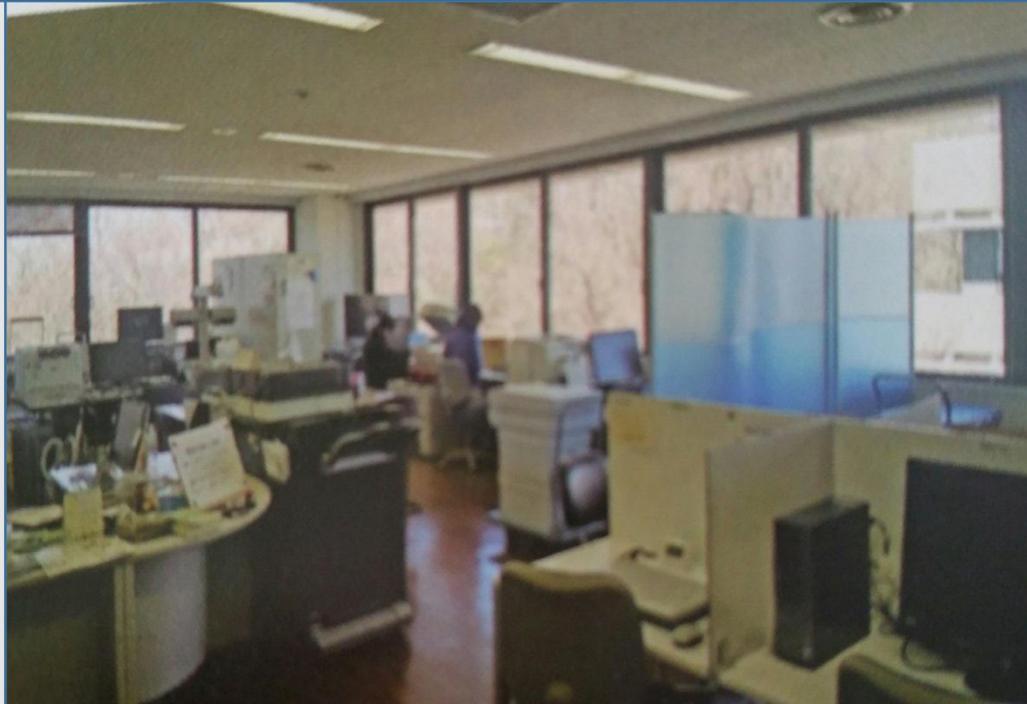
事例) 法政大学大原社会問題研究所の環境アーカイブズ

組織: 大学法人(大学の研究所)

< 主要な役割 >

- 環境問題(公害問題、薬害、自然環境保護、都市問題など)に関する市民活動アーカイブズを中心に収集して、歴史的に貴重な市民活動記録が散逸されることを防止する
- アーカイブズを教育、歴史、社会史研究に提供
- 市民活動アーカイブズの整理・保存・活用などに関する標準を開発する
- 公開して利用可能な情報を提供

法政大学大原社会問題研究所・環境アーカイブズ 閲覧室・保存書架



2.2 薬害資料所蔵機関の調査（継続）

○ 調査内容

目録整理状況（継続）

公開分類進捗状況（継続）

薬害団体の活動状況

（高齢化による資料整理の困難さなど）

収集すべき資料の判定

2.3 薬害関連資料データ・アーカイブズの構築可能性について検討

○ 検討内容

対象団体の目録データ提供が可能か否か
公開分類について検討（公開判定された資料は公開、
非公開判定された資料は目録も非公開）

要審査資料の分類をどうするかについて実践方法を
検討

データ・アーカイブズの要素について検討

2.4 実践事項

- 「薬害データ・アーカイブズ基盤構築」のため、資料管理対象団体の選定、入力項目の選定、資料概要・目録記述の作成、形態別の目録入力などを行う。
- 被害者個人や団体において、資料整理マニュアル（仮）の訂正や整理・保存の実施に当たっての助言・指導を実施する。

2-4-1 緊急収集

- 筋短縮症記録の緊急収集
- 福岡スモン団体の事務所の移転に伴い、資料が保存されていた建物が壊されることから、資料を大阪人権博物館の一角に移管した。

廃棄寸前に救われた 筋短縮症資料と福岡スモン資料



場所;大阪人権博物館の地下書庫前、2階作業室

2-4-2 永久保存資料の分類

- 薬害資料の中で、「薬害データ・アーカイブズ基盤構築」のため、歴史的に価値のある資料を管理対象として選定。入力項目の選定、資料概要・目録記述の作成、形態別目録入力などを行う。
- 被害者個人や団体において、資料整理マニュアル(仮)の訂正や整理・保存の実施に当たっての助言・指導を実施する。

2-4-3 目録入力

- 「薬害データ・アーカイブズ基盤構築」のため、資料管理対象団体の選定、入力項目の選定、資料概要・目録記述の作成、形態別目録入力などを行う。
- 被害者個人や団体において、資料整理マニュアル(仮)の訂正や整理・保存の実施に当たっての助言・指導を実施する。

倫理面への配慮

- 裁判などのために作成した資料の中に、個人情報、写真などが含まれているので、匿名にする場合がある。
- 薬害資料を公開する際は、所蔵者に問い合わせした後、公開するように処置している。

収集選別・整理作業



薬害スモン、ヤコブ関連資料整理の姿

目録入力・公開分類・保存作業

目次	品名	数量	単位	備考
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20



薬害スモン、ヤコブ、筋短縮症関連資料

薬害資料を使った展示



主催：全国薬害被害者団体連絡協議会、大阪人権博物館

緊急避難保存場所



大阪人権博物館

作業の方法：大学・民間・官庁の協力体制

- 調査・研究・作業支援：薬害資料研究班（法政大学）
- 作業：薬害被害者10団体
- 作業・支援：全国薬害被害者団体連絡協議会
- 支援：厚生労働省医薬・生活衛生局
総務課 医薬品副作用被害対策室

3. 薬害資料データ・アーカイブズ の可能性と歴史的意義

3.1 薬害関連資料の存在と体系的な収集

官庁所蔵資料

国・地方自治体・裁判所・
立法機関

事例：行政官庁所蔵資料

裁判関係資料

国会議員の活動資料

民間所蔵資料

被害者団体・企業・市民活動団
体・大学など教育機関・研究所

事例：被害者団体の所蔵資料

加害者団体の所蔵資料

市民運動団体の所蔵資料

弁護団体の活動資料

3.2 薬害資料アーカイブズの管理組織と定員(案)

- 必要な部署と定員(記録管理士 1人を含む)

記録政策部

記録管理部

記録サービス部(閲覧)

- 事例(薬害被害対策への提案) アーカイブズの体制として、情報公開部、記録管理部、展示室を一貫体制として運用すると専門性、費用の問題が解決(例:韓国の地方自治体)

3.3 体系的な管理体制と期待効果

- 薬害関連資料の収集
- 整理（目録作成、概要調査）
- 公開分類（公開、非公開、要審査-部分公開を含む）
- 薬害資料の情報サービス
- 薬害資料を利用した薬害を防ぐための教育
- 人間の生命を尊敬し、薬害を防ぐための展示

3.4 薬害関連資料データ・アーカイブズ構築の 歴史的意義

- 貴重な資料の散逸を防止する。
- 日本の官・民・学の協同活動による民主主義的実践
- 薬害資料を利用して、薬害を防ぐための教育できる
- 情報システム時代に相応しいシステムの構築可能
- 価値の高い資料については、歴史的遺産として永久保存

ご清聴ありがとうございます。